



新しい学び（須坂モデル）を実現する学校 ～小中一貫教育に取り組みやすい学校の形～

前号では、小中一貫教育のよさについて説明いたしました。しかし、実際に小中一貫教育活動を行い、小中連携した教育活動や交流活動を取り組む上で、次のような課題があります。

子どもたちが、小学校卒業後、一つの小学校から別々の中学校に入学する学校があり、小学校と中学校で連携や交流がしにくいという点です。

この課題を解消するためには、通学区域の見直しと学校の形を考える必要があります。小中一貫教育に取り組みやすい学校の形は次のようなものがあります。

義務教育学校

小学校と中学校の区切りをなくし9年間の義務教育を一貫して行う学校です。教育課程や学校運営については柔軟に運用することができます。小中学生が同じ校舎で学べるので、小学校段階から教科担任制がとりやすく、児童会と生徒会を一緒に運営したり、学校行事を一緒に行ったり、小中連携が日常的・継続的にできます。

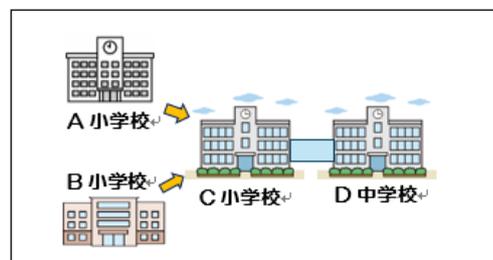
小中一貫型学校

小学校と中学校の区別がありますが、小中学校が同じ目標で、9年間の義務教育を一貫して行う学校です。小中学校の校舎が分かれても、同じ目標を共有しているため、小学校の教員が中学校の授業を受け持ったり、中学校の教員が小学校の授業に参加し指導に活かしたりする計画的な小中連携ができます。

義務教育学校も小中一貫型学校も、施設の形態として主に「施設一体型」と「施設分離型」の二つがあります。

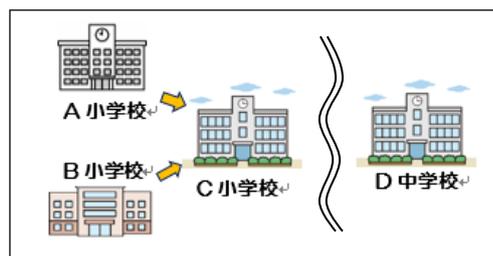
施設一体型

小学校と中学校の校舎が廊下等でつながっている施設です。小学生と中学生が、同じ場所で学ぶので、連携がとりやすく、特別教室等も共有できるなど、協働的に教育活動が行えます。ただし、ある程度の広さの敷地が必要となります。



施設分離型

小学校（前期課程）と中学校（後期課程）の校舎が分かれています。施設分離型は、既存の校舎を活用することもできます。そのため、立地や地理的条件など地域の実状に合わせて設置できます。また、義務教育学校の施設分離型の場合、小学校低学年の校舎と高学年・中学校の校舎に分けるなど、発達段階に応じて柔軟な運営ができます。



新しい学び（須坂モデル）を実現するため、小中一貫教育をすべての学校で進めていきます。市教育委員会では、そのための基本方針（案）を今後公表し、市民の皆様のご意見をお聞きしながら、基本方針を策定していきます。



新しい学校づくりだより4・5号の内容を分かりやすく説明した動画②「小中一貫教育のよさ」と動画③「小中一貫教育の学校の形」を作成しましたので、ぜひご覧ください。

<https://www.city.suzaka.nagano.jp/soshiki/10010/5/5875.html>

